

# 庄

(しょう)

荘園の荘の字が変化して「庄」になったといわれる肥沃な大農園地帯。起源は平安時代末期の源平合戦の頃合までさかのぼり、この集落の人たちは、おそらく東北地域から流れて来たのではないかと考えられている。川の無いこの集落は、中心にある綿津見神社が、水にまつわる神様なのもうなづける。この地域を歩いてみると、至る所に子ども達の笑い声や、走り回っている姿が思い描ける。



綿津見神社(わたつみじんじや) A

1300年頃に創建されたといわれるこの神社の名前は、「難陀龍王宮」といわれていたが、明治になって「綿津見神社」と改称される。この神社は、綿津見神、彦火火出見神、豊玉姫神の3柱の神を祭神とする。綿津見とは海を守護する神、彦火火出見神は山の幸の神、豊玉姫神は彦火火出見神の妃といわれている。庄地域の産土神で、庄の地に住む人々の守り神として崇拜されている。明治までは八大竜王の1つの難陀龍王を祭神として信仰してきた。古来から日本では、龍と蛇は同等のものとして扱われ、閻魔神は地上の水を支配する竜神。高麗神は天井天空の水を支配する竜神、綿津見族は、祈雨(雨乞い)、止雨の神で蛇を血脈として尊敬していた。



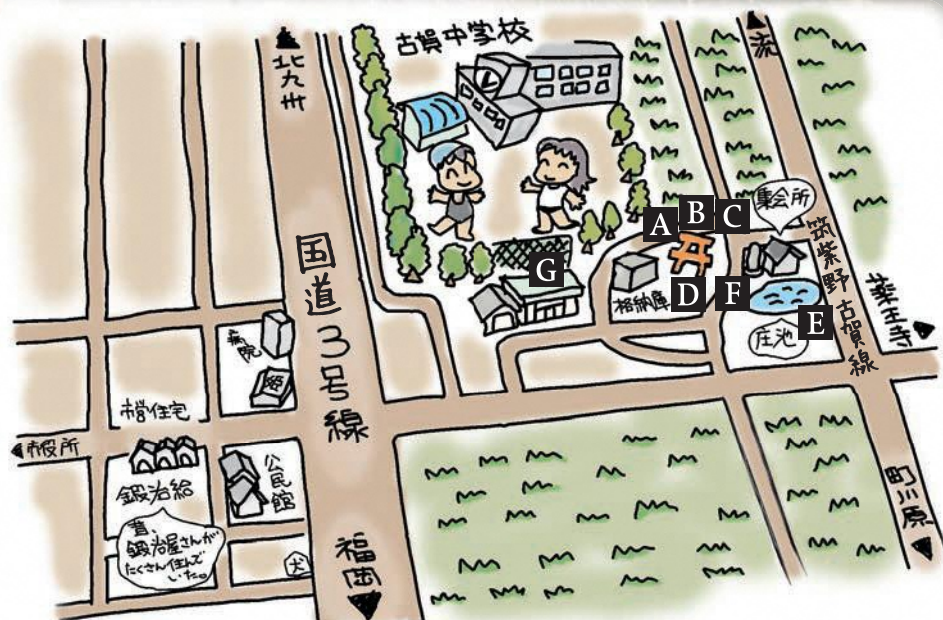
境内社 B

祈雨(雨乞い)、止雨の神の貴船神社、菅原道真(学問の神)を祀った天神社、大力健康の神の戸開社、眼病の神の目の神宮が一緒に祀られている。



境内塔 C

庚申神(庚申尊天)、猿田彦太神(天孫降臨の際道案内を務めた国つ神)、中世障の神(集落に来る疫病神や悪霊神を防ぎ止める神)とされ道祖神として祀られている。



庄観音堂 D

糟屋北部新四国八十八箇所霊場の16番札所である庄観音堂には、四国霊場と違う十一面観世音菩薩が霊場札所の御本尊として安置されています。十一面観世音菩薩はこの観音堂の御本尊であり、その隣には千手観世音菩薩が安置されています。観音堂には右から弘法大師・不動明王・阿弥陀如来、十一面観世音菩薩・千手観世音菩薩・地蔵菩薩・薬師如来が安置されており、中でも阿弥陀如来は、糟屋北部新四国八十八箇所霊場の42番札所の御本尊として安置されています。



サンコスモ古賀 G

市制施行日(平成9年10月1日)にオープンした古賀市の保健福祉総合センター。「太陽が輝いているもとにコスモス(古賀市の花)が揺れて咲いている」ように元気で優しい古賀をイメージして名付けられたサンコスモ古賀は、その中央に市民の「健康」「安心」「生きがい」という願いを込めたモニュメント「ハーモニー」が位置している。



庄池 E

川の無いこの集落の唯一の水源。湧き水で、その水量は半端ではなかったらしいが、最近では井戸から地下水をたくさん汲み上げているので、湧き水ではなくなったそうで、冷たい湧き水は、子ども達の格好の遊び場だったそうです。



橋三郎先生顕彰碑 F

明治初期、この地域一帯の児童を初め宗像、粕屋、筑紫郡からの子弟の教育に尽力された先生。寺小屋的なものからスタートされた活動は後の尋常小学校となり、約28年間郡内外の子弟の教育に尽力された。